

運営評価報告書一次評価の基準について

横須賀美術館の運営評価は、現在行われている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

この度、委員からのご意見を受け、自らの評価である一次評価のうち数値目標である「達成目標」については、数値基準を作成し、この基準を活用し評価を行いたいと考えています。

なお、この基準は一次評価の際の基準であり、運営評価委員による二次評価は、これまでと同様に各委員の意見等により決定するものとします。

1 達成目標の評価基準について

(1) 過去 3 年度の達成目標の数値等を参考に評価基準を作成

評価基準 (平成 22 年度から)		数値基準 (実績値/目標値)
すぐれた成果を挙げている。	S	1.2 以上
目標を達成している。	A	1.0 以上～1.2 未満
目標をほぼ達成している。	B	0.9 以上～1.0 未満
目標にはほど遠い。 より一層の努力を要する。	C	0.7 以上～0.9 未満
努力が結果に結びついていない。 方法そのものについて再検討を要する。	D	0.7 未満
判定不能	F	—

(2) ひとつの評価項目に目標値が複数ある場合、各数値に上記基準を当て、総合的に判断します。(次頁以降参照)

(3) 計算上、最大値をもって、S 評価 (1.2 以上) にならない場合は、最大値を S 評価とします。(例：館内アメニティ 90%以上→S 基準 108%)

(4) 過去 3 年度の評価及び委員コメントは別紙のとおりです。

2 ひとつの評価項目に目標値が複数ある場合の評価方法（案）について

- ・達成目標の評価項目が複数ある目標は下記のとおりです。
以下の方法で評価を行います。

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【達成目標】 環境調査の実施 (年2回)
美術品評価委員会の開催 (年1回)

[評価方法]

年間の回数については、両目標共に必要に応じた回数であり、特別な事情がない限り、A評価とします。

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【達成目標】 館内アメニティ満足度 90%以上
スタッフ対応の満足度 80%以上

[評価方法]

2つの項目の重要度は同じであるため、達成目標基準を確認し二つのうち達成率の低い方を採用します。

(平成29年度評価実施の場合の例)

項目	目標値 (%)	実績 (%)	達成率
館内アメニティ満足度	90	92.8	<u>1.03</u>
スタッフ対応の満足度	80	86.8	1.09

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

[評価方法]

使用量については、天候（猛暑による電力量増）や観覧者数の増減により大きく変動します。

このため、達成値を参考にしながら、観覧者数の増減等を勘案し総合的に評価を行います。

(参考 平成 29 年度)

項目	目標値	実績	達成率
電気使用量 (k w h)	2, 521, 000	2, 539, 289	0. 99
水道使用量 (m ³)	4, 280	4, 608	0. 93
事務用紙 (枚数)	226, 900	259, 550	0. 87
達成値率平均 (評価)			0. 93

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	年間観覧者数 100,000人以上	年間観覧者数 100,000人以上	年間観覧者数 100,000人以上
実績	114,861	108,413	118,370
一次評価	S	A	A
新基準評価	A	A	A
二次評価	S	A	A
増減率	1.15	1.08	1.18

コメント

平成27年度 年々観覧者数が増加しており、27年度は大幅に目標をクリアしている。従事している方々の努力による。
 平成28年度 年間観覧者数は前年度より減少しているが、過去10年間の数的推移をみれば、達成目標を超えて継続的に維持されている。
 平成29年度 前年度比1万人増を評価する。目標人数を再検討してもよいのではないか。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ2,000人	市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ2,000人	市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ2,000人
実績	2,248	2,662	2,693
一次評価	A	A	S
新基準評価	A	S	S
二次評価	A	A	S
増減率	1.12	1.33	1.35

コメント

平成27年度 特になし。
 平成28年度 市民ボランティア協働事業への参加者数が増加したこと、新規登録者があったことを評価する。
 平成29年度 目標値を大きく上回っており、目標人数を再検討してもよい時期にきていると思われる。

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	企画展の満足度 80%以上	企画展の満足度 80%以上	企画展の満足度 80%以上
実績	87.00%	88%	89.60%
一次評価	A	A	A
新基準評価	A	A	A
二次評価	A	A	A
増減率	1.09	1.1	1.12

コメント

平成27年度 企画展の満足度は高く、「利用者の知的欲求」は高い水準で満たされている。
 平成28年度 年々企画展の満足度が向上しており、安定感もある。キャプション文字の見にくさ等、問題が改善されれば満足度は大幅にアップすると思われる。
 平成29年度 「観覧料」「解説・順路」など改善に限界がある中、他項目で高評価を得てカバーしていることは評価できる。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	小学生以上の年間観覧者数 22,000人以上	小学生以上の年間観覧者数 22,000人以上	小学生以上の年間観覧者数 22,000人以上
実績	24,173	22,208	27,345
一次評価	A	A	S
新基準評価	A	A	S
二次評価	A	A	S
増減率	1.1	1.01	1.24

コメント

平成27年度 児童生徒造形作品展を美術館で開催していただくことにより、子どもたちも数多く訪れ美術館を身近に感じることができている。
 平成28年度 この三カ年で幼児の観覧者数が微減している理由を分析する必要あり。
 平成29年度 14歳以下の人口が減少傾向にある中で、ファミリーが訪れやすい時期に若年層向け、とりわけ幼児の事業を実施しカバーした結果だと思う。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	環境調査の実施（年2回） 美術品評価委員会の開催（年1回）	環境調査の実施（年2回） 美術品評価委員会の開催（年1回）	環境調査の実施（年2回） 美術品評価委員会の開催（年1回）
実績	環境調査年2回 美術品評価委員会1回	環境調査年2回 美術品評価委員会1回	環境調査年2回 美術品評価委員会1回
一次評価	A	A	A
新基準評価	A	A	A
二次評価	A	A	A
増減率	-	-	-

コメント

平成27年度 所蔵作品管理、作品収集に関する美術館としての取組みは過不足なく行われている。
平成28年度 所蔵作品管理、作品収集に関する美術館としての取組みは過不足なく行われている。
平成29年度 各目標回数は達成している。単純に回数を重ねることは可能ではないか。

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	館内アメニティ満足度90%以上 スタッフ対応の満足度80%以上	館内アメニティ満足度90%以上 スタッフ対応の満足度80%以上	館内アメニティ満足度90%以上 スタッフ対応の満足度80%以上
実績	館内アメニティ満足度92.5% スタッフ対応の満足度85.2%	館内アメニティ満足度92.3% スタッフ対応の満足度86.0%	館内アメニティ満足度92.8% スタッフ対応の満足度86.8%
一次評価	A	A	A
新基準評価	A	A	A
二次評価	S	S	S
増減率	-	-	-

コメント

平成27年度 館内アメニティ満足度が初の目標達成、スタッフ対応は大幅な目標達成をしており、年々評価が上がっていることは、観覧者にとっては一番良いことである。
平成28年度 「心地よい空間の提供」は誘客に対する基本であり、日常の配慮と工夫が能動的、継続的になされている。
平成29年度 この高い水準を維持するには、継続した取り組みが随時確認・更新されていくことが必要と思う。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	社関連事業への参加者数延べ400人以上	福祉関連事業への参加者数延べ400人以上	福祉関連事業への参加者数延べ420人以上
実績	318	359	435
一次評価	B	B	A
新基準評価	B	B	A
二次評価	B	B	A
増減率	0.8	0.9	1.03

コメント

平成27年度 実施事業に鑑み、目標数値が適切であったか、検討すべきと考える。
平成28年度 実施事業に鑑み、目標数値が適切であったか検討すべき。
平成29年度 目標数値を達成しているが、参加者を増やそうとしてもスタッフが対応できるか疑問が残る。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
達成目標	電気使用量（2,571,000kwh） 水道使用量（4,100m ³ ） 事務用紙使用枚数（213,000枚）	電気使用量（2,564,960kwh） 水道使用量（4,176m ³ ） 事務用紙使用枚数（212,198枚）	電気使用量（2,521,000kwh） 水道使用量（4,280m ³ ） 事務用紙使用枚数（226,900枚）
実績	電気使用量（2,540,390kwh） 水道使用量（4,396m ³ ） 事務用紙使用枚数（211,250枚）	電気使用量（2,441,219kwh） 水道使用量（4,394m ³ ） 事務用紙使用枚数（253,550枚）	電気使用量（2,539,289kwh） 水道使用量（4,608m ³ ） 事務用紙使用枚数（259,550枚）
一次評価	B	B	B
新基準評価	B	B	B
二次評価	A	A	A
増減率	電気、水道超過	水道、事務用紙超過	電気、事務用紙超過

コメント

平成27年度 目標値をわずかに達成できなかった項目については適切に分析されている。
平成28年度 適切な原因分析がなされており、若干の増加は容認すべきと考える。
平成29年度 目標数値は超過したが、観覧者数も増加しており、スリム化が十分に図られてきているところでの使用量増加は経営上致し方ないのではないか。維持管理やサービスの不足にならないよう今後も継続していただきたい。